

山形城三の丸跡第 23 次発掘調査説明資料

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター 令和 4 年 11 月 12 日（土）

調査要項	
遺跡名	山形城三の丸跡 (遺跡番号 201-003)
所在地	山形県山形市本町 1 丁目外
時代・種別	古代（集落跡）・近世（城館跡）
起因事業	山形広域都市計画道路事業
調査依頼者	山形県村山総合支庁建設部都市計画課
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
調査指導	山形県観光文化スポーツ部文化財活用課
調査協力	山形市企画調整部文化振興課
現地調査	令和 4 年 6 月 6 日から 11 月 25 日まで
調査面積	1,250㎡
調査担当者	主任調査研究員 渡辺和行（現場責任者） 主任主査 小林圭一 専門調査研究員 齋藤 健
検出遺構	竪穴建物 土坑 石組み遺構 柱穴 ピット
出土遺物	土師器 須恵器 陶磁器 金属製品

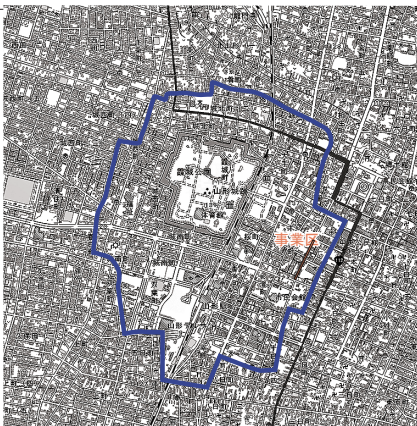


図 1 遺跡位置図 (1/50,000)

1 調査の概要

今回の調査は、山形広域都市計画道路事業 3・2・5 号旅籠町八日町線に関する、昨年に続いての調査になります。また、山形城三の丸跡においては当センターで行う 23 回目の調査となります。

昨年度は、1 から 4 区の調査区を設定し、6 月後半から 10 月下旬まで調査を行いました。調査面積は 830㎡になります。調査の結果、古代から近世までの遺構・遺物を確認しています。1 区からは、16 世紀末～17 世紀初頭の陶磁器類が出土し、最上氏時代の痕跡が確認されました。2～4 区については、近世後半の遺物や遺構が検出され、堀田氏時代の赤瓦なども出土しています。また、奈良・平安時代の竪穴建物跡も見つかっており、特に 2 区と 4 区では、8m 四方もある大型の竪

穴建物が見つかりました。当時の一般的な住居の大きさが 4m 四方程度であることを考えると 2 区と 4 区の竪穴建物は際立った大きさであったことから一般的な住居とは違った使い方をされていた可能性があります。

今年度も調査区を 4 区画設定し、5～8 区として調査を行いました。現在は 5・6 区の調査が完了し、7 区と 8 区の調査を行っている段階になります。また、7 区については遺構の保存状態は非常によく、近世・近代と奈良・平安時代の面の 2 面が見つかりました。

2 見つかった遺構と遺物

5 区については、近世の遺構の残りが非常によく、写真 1・2 のような石を重ねて組んだ遺構が検出されています。近世に入ると石を井戸などの構造物の構築材として取り入れる機会が多くみられます。写真 1 の井戸は 2

m 以上掘り下げても底は見えませんでした。そこからピンポールをさして確認したところ 60cm 以上のところで硬い層や石にぶつかることから恐らく 2m60cm 以上の深さがあったとみられます。ですが、崩落の危険性を考慮し、底の確認はしておりません。遺物は近世後半のものが出土しており、それ以前に使用されていた井戸と考えられます。その周辺で写真 2 のような遺構も見つかっています。こういった遺構は、三の丸の中で度々見つかっており水場関係の遺構ではないかと推測されています。この遺構も近世後半の遺物が出土しておりますので先ほどの井戸と同時期に使用されていたと考えられます。

その他、5 区では柱穴や土坑といった遺構が見つかっています。遺物は近世後半の陶磁器類や瓦などが出土しました。また、ほとんど壊されていましたが、奈良・平安時代の竪穴建物の一部も見つかっています。

6 区は北側に大きな土坑が見つかっています。調査区内で検出できたのは半分にも満たないため、こういった遺構かははっきりと分かりません。遺物は瓦や陶磁器が見つかり、近世後半のものと考えられます。

7 区では上層で近世・近代の遺構・遺物、下層では奈良・平安時代の遺構・遺物が見つかっています。上層では写真 4 の石組遺構や、地下施設と考えられる遺構が見つかりました。中には土止めのための板と杭の痕跡を留める遺構もあります。写真 4 の石組遺構は近代以降のものになりますが、内側になる石を割って面を作り出す加工などが見られました。深さも 1m 近くあるので、貯蔵施設の可能性が高いと考えられます。遺物は近世後半や明治期のものが多く確認されました。下層では、竪穴建物が 2 棟見つかり、いずれも 4m 四方の一般的な大きさの建物になります。遺物の年代から奈良時代後半に埋没

したとみられます。床の一部に粘土などを用いて凹凸をなくした張り床が見られました。また、写真 6 の竪穴建物 2 では、カマドと煙道が確認されています。どのように構築されたかについてはこれから調査を行います。

8 区では南側で河川跡が見つかり、遺物が少なくははっきりとはいえませんが、出土した遺物は平安時代のもので、その時期に埋没した可能性を指摘できます。北側では土坑や溝跡が検出されています。特に中央の土坑からは近世前半の瓦や陶磁器が見つかり、この地区は、昨年調査した 1 区に隣接した調査区になります。昨年度も近世前半に属する遺物が出土しており、この調査区周辺は最上氏時代から何らかの利用がされていたことが分かりました。絵図との比較など今後検討していきたいと思ひます。

昨年度及び今年度の調査で、時期による土地利用の状況が見えてきました。今まで調査された三の丸のデータも使用しながら引き続き今回の調査結果について検討していきたいと思ひます。

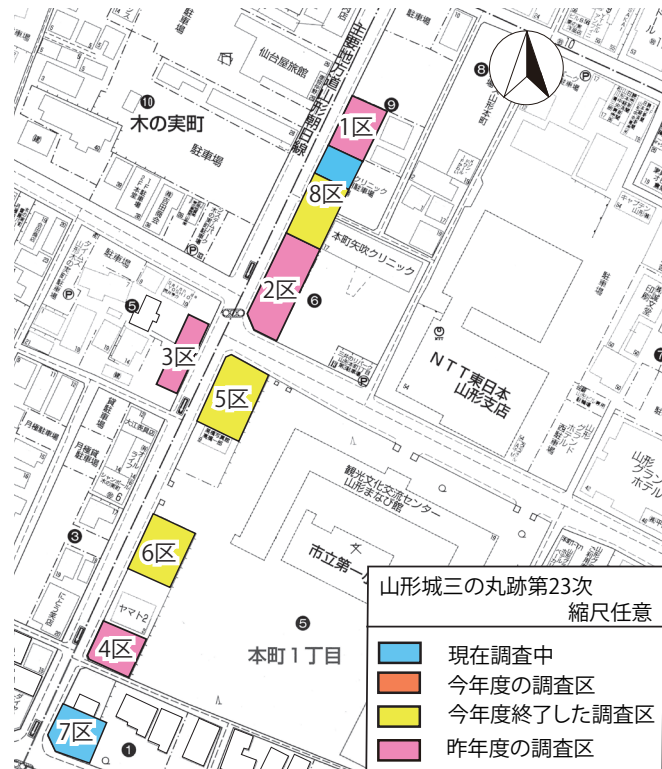


図 2 調査区概要図



写真1 5区 石組井戸（南から）



写真2 5区 石組遺構_水場か（西から）



写真3 8区北 軒丸瓦出土

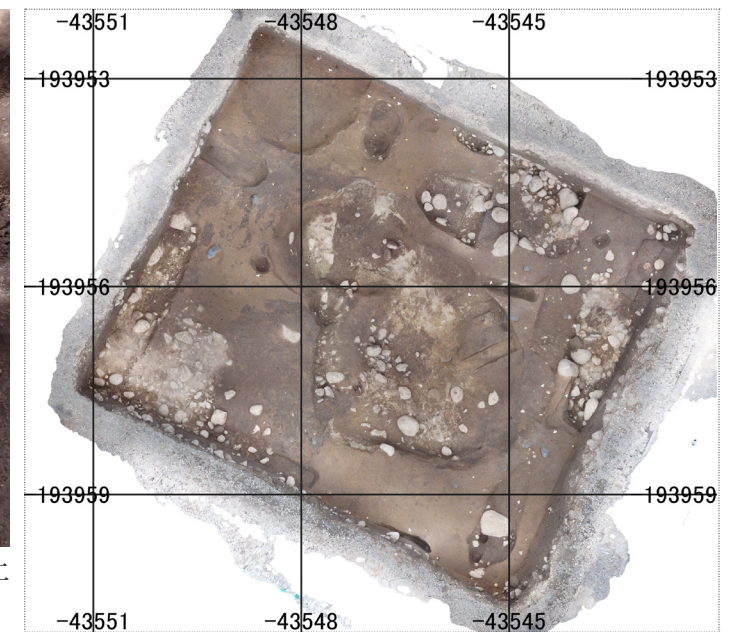


図3 8区北遺構完掘状況_縮尺任意（オルソ画像）



写真4 7区 石組遺構_貯蔵施設か（東から）



写真5 竪穴建物1（北から）



写真6 竪穴建物2（西から）



写真7 竪穴建物2の遺物出土状況（西から）

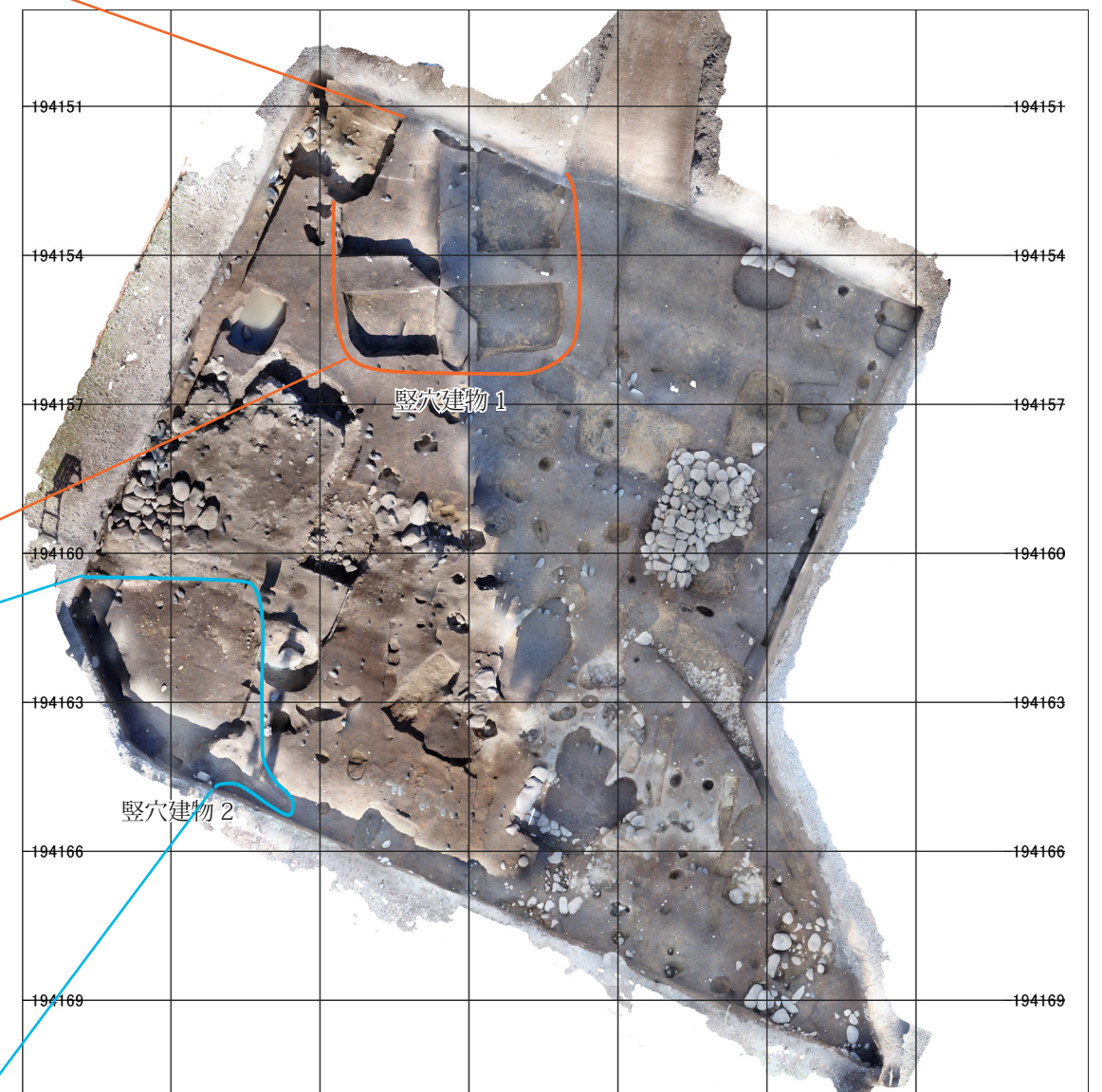


図4 7区南下層 遺構配置図_縮尺任意（オルソ画像）